

令和7年12月21日

文部科学省 副大臣
中村 裕之殿

日本心理劇学会 理事長
横山 太範

日本心理劇学会声明

学校におけるロール・プレイングのよりよい活用に向けて

—いじめの場面のロール・プレイングに関連して—

令和4年12月に『生徒指導提要』の改訂版がオンライン上で公開され、以下の内容が示されました。

「学校においては、道徳科や学級・ホームルーム活動などの時間に、実際の事例や動画などを教材に児童生徒同士で検討したり、いじめ場面のロールプレイを行ったりするなど、体験的な学びの機会を用意することが求められます。」

これを受けて本学会では、児童生徒一人ひとりの個性を尊重しつつ、社会的な資質・能力・態度を育てることと、教職員がやり甲斐や充実感をもって児童生徒に接することを、支援する目的で、『学校におけるロール・プレイングのよりよい活用に向けて—いじめの場面のロール・プレイングに関連して—』という声明を出すことにしました。

- 1 ロール・プレイングは、適切に活用されるならば、児童生徒が心を癒やしたり、新しい気づきを得たり、よりよい関係を築いたりすることを支えます。
- 2 ロール・プレイングは、発達支持・課題予防・困難課題対応などの、様々な目的をもって用いることが可能です。
- 3 しかし、ロール・プレイングは疑似体験とはいえ、現実的な経験と成り得るので、いじめなどネガティブな気分を味わうと、そのダメージは、現実のものと変わりません。そのため、不用意に活用すると、かえって心の傷つきを与える危険もあるため、実施者がその特性を十分に理解し、安全・安心に細心の配慮を行うことが大切です。

趣旨説明

ロール・プレイングに参加すると、一人ひとりが思考・感情・行動の3水準で物事を捉えながら、他者や集団との関わり方を工夫することができ、その結果として、役割や関係についての様々な気づきを得られます。つまりロール・プレイングは、以下に示した生徒指導のすべての領域で活用できます。

- 1) 発達支持的生徒指導 全ての児童生徒の発達を支える。
- 2) 課題予防的生徒指導：未然防止教育 全ての児童生徒を対象とした課題の未然防止教育を行う。
- 3) 課題予防的生徒指導：課題早期発見対応 課題の前兆行動が見られる一部の児童生徒を対象とした課題の早期発見と対応を行う。
- 4) 困難課題対応的生徒指導 深刻な課題を抱えている特定の児童生徒への指導・援助を行う。

ロール・プレイングの実施者の役割を果たす教職員にとって大切なことは、いじめの場面の劇を行うことを絶対視せずに、いじめを予防する観点から、様々なねらいをもった劇を、学校生活の中に導入することと考えられます。具体的にはロール・プレイングは、以下の目的で実施することができます。

- 1) 信頼関係の形成・居場所づくり
 - 教職員と児童生徒と一緒に演じる楽しさを共有し合う。
 - 学級・ホームルームへの参加意欲を高める。
 - 信頼し合うことの意義を知り、安全・安心な人間関係をつくる。
- 2) 自己理解・自己開示・自己決定・自己肯定
 - 自分の個性を発見する。 ○自分の性格や人生目標に目を向ける。
 - ありのままの自分を表現する。 ○自分を肯定的に捉える。
- 3) 他者理解・集団理解と共感性の育成
 - 他者の気持ちを知る。 ○他者や集団への関心や理解を深める。
 - 互いに認め合い、励まし合い、支え合える関係の在り方を体験的に知る。
- 4) ソーシャル・スキルや社会性の育成
 - 人間関係を体験し、人付き合いのコツを身に付ける。
 - 社会のルールを守って、他者や集団と関わることの意義に気づく。
- 5) 主体的・対話的な役割体験
 - 自分の今現在の役割や関係を振り返る。 ○今までとは異なる関わり方を楽しむ。
 - 新しい役割や関係を自発的・創造的に試す。
 - 他の児童生徒との関係の中で自己存在感を感受する。

ロール・プレイングの場で安全を確保することとは、実施者が、児童生徒の許容できない状況（例：暴言・無視・差別に代表される人権の侵害、生命・身体にかかわる危険、器物の破損、など）が起こらないように、気を配ることです。

ロール・プレイングの場で、児童生徒の安心を確保することとは、実施者が、児童生徒が自分にとって心地よい距離感を保ちながら、他の児童生徒と、またグループ活動と関わるように、温かい雰囲気づくりを工夫することです。

ロール・プレイングが適切に活用されるならば、個々の児童生徒が自発的かつ主体的に自己成長を図る過程を支えるのみならず、集団全体の発展も支えます。しかし、安全・安心に配慮しない形で活用された結果、かえって心の傷つきや不安を生じさせる危険もあります。教職員が、通常よりも一層慎重に児童生徒の心の動きを読み取り、劇を通してわだかまりが生じないように、配慮する必要があります。

学級・ホームルームに、以下の状況が整っていないときには、いじめの場面を演じることを避け、楽しく分かち合える劇を行ったほうが、安心・安全が確保されます。

- 1) 集団内に極端な不和や対立がないこと。
- 2) 集団内の地位の固定化がないこと。
- 3) 情緒的なバランスが著しく欠けている児童生徒や、孤立している児童生徒がないこと。
- 4) 現実にいじめの問題が報告されていないこと。

本学会では、教職員のためのロール・プレイング研修の場を提供してゆきます。

以上